

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 金 惠京

研究課題		無差別テロ防止のための国際法の法実現
報告の概要	研究目的及び研究概要	現在の深刻化する無差別テロを抑止するためには、各国の連携が必要であり、その体制を整備するためには国際法の存在は不可欠である。また、テロを防止する国際法が作成される段階においては、各国の様々な主張や利害が調整され、現代における人権や人道の基準に即した法の作成が意識されている。そうした背景を受けて作成された国際法は一般に高い法的道徳性が満たされている。しかし、国際テロを防止するための国際法は近年、包括性を高めており、それを国内法化する過程において各国の裁量が高まっている。それは同時に当該の国際法の目的が満たされない(曲解される)危険を孕むことでもある。そこで、国際法が目的を達するための法実現過程における課題を明らかにし、法理念や作成過程に存在した人権意識等の徹底をいかに図るのかを検証する。 そうした国際法から国内法に至る法実現の過程を明らかにするためには、法学はもちろんのこと政治学、歴史学、国際関係学等への理解は欠かせない。例えば、刑法における一つの罪状を国際法に基づき国内法化すると考えた場合、刑法の背景にある歴史的要素、法案が示された際の政治的要因、外交上の要因などを検証しなければならない。
	研究成果	本年度はテロの未然防止、および国際法理念の法実現という問題に対して、人権や人道という観点に注目して各種の論考を執筆し、社会活動を行ってきた。 特に各国を繋ぐ制度的な枠組みとして、民主主義に注目し、現在、その意義や必要性を強調した書籍を出版することを計画している。その準備として、ウェブ媒体(朝日新聞社によるWEBRONZA)にて連載を持ち、内容を常に更新している。また、核テロリズムの危険性の高まり、「核兵器禁止条約」の国連総会における採択を受けて、核廃絶に向けた論考も発表した。 前年度に引き続き、各種の社会貢献活動も継続して行い、市民講座などを通じて研究成果の還元を努めた。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	【書評・雑誌投稿など】 金惠京・WEBRONZA・朝日新聞社(以下、3行は同サイト掲載論考) 「空爆後のシリアで目指すべき到達点はどこか? (前後編)」2017年5月10日・19日 「連載・民主主義と歩む韓国」2017年8月2日(以降、8回) 「安定を遠ざける麻生太郎副総理の難民射殺発言」2017年10月11日 金惠京・「核廃絶を単なる理想で終わらせないために」・『潮』8月号・2017年7月・潮出版社 【講演会、研究会等での講演・発表】 金惠京・12月17日・「国際社会における北朝鮮」・朝日カルチャーセンター朝日JTB・交流文化塾 【社会貢献活動等】 金惠京・全3回・「東アジアの安全保障を読み解く」・早稲田大学エクステンションセンター中野校